

第 30 回鋼構造基礎講座

- 鋼構造物（鋼橋）の防
食設計と防食技術 -

平成 27 年 12 月

土木学会 鋼構造委員会
鋼構造継続教育推進小委員会

まえがき

近年、土木学会内では技術者の継続教育の必要性が強く認識され、具体的な継続教育プログラムが策定・実行され、成果をあげつつあります。最新・最先端技術に関しては鋼構造委員会の小委員会で調査研究が行われ、委員会活動中の中間報告あるいは終了後の活動報告としてシンポジウム等で紹介・報告されCPDポイントとして継続教育に活かされております。しかし、これらの小委員会活動は比較的専門性が高く、シンポジウムの内容も開発研究的な要素が多いことから、中級・上級技術者を対象とした継続教育プログラムと位置付けられます。

一方、初級・中級技術者や上級技術者でも専門分野外の基礎技術を習得するための継続教育を目的とした講習会は残念ながら意外に少ないのが現状です。

このような背景から、鋼構造委員会では鋼構造継続教育推進小委員会を設置し、若手技術者および、今まで当該のトピックを専門としていない技術者を対象に基礎的な講習会を実施してまいりました。

高度成長期に整備された橋梁の老朽化は、そのストック量と相まって大きな社会問題になっています。鋼構造物に要求される性能の一つである耐久性は、使用性や安全性の経年的な低下に対する抵抗力と言い換えることができます。鋼構造物の経年劣化の要因の一つとして「腐食」が上げられ、この「腐食」による劣化を防ぐ「防食」が、鋼構造物の耐久性を確保するための設計やマネジメントの一つといえます。また、「防食」は、鋼構造物の設計や維持管理計画のうえで重要な対処項目です。

そこで今回、鋼橋の防食に関する基礎的な理解を深めていただくことを目的として、第30回鋼構造基礎講座「鋼構造物(鋼橋)の防食設計と防食技術 - 」を企画いたしました。

本基礎講座では、「防食」の基礎知識とその設計、ならびに「防食」における要素技術などについて、最新の内容も紹介しながら解説します。講師はいずれもこの分野に精通されておられる専門家の皆様です。

本講座が、若手技術者の方々や、鋼構造物の設計・製作・施工に携わられる方々にとって有意義なものとなることを切望しております。

平成 27 年 12 月

鋼構造継続教育推進小委員会
委員長 勝地 弘

目次

1. 鋼道路橋における腐食損傷事例とその対策の課題と留意点
貝沼重信 (九州大学)
2. 鋼鉄道橋の防食設計
池田 学 ((公財) 鉄道総合技術研究所)
3. 鋼道路橋の防食設計
高木千太郎 ((一財) 首都高速道路技術センター)
4. 塗装を中心とした鋼橋の防食について
前田 博 (宇部興産機械(株))
5. 金属溶射について
宮田 弘和 (西日本高速道路(株))
6. 耐候性鋼材とは
鈴木克弥 ((株) 横河ブリッジ)